

■ 施策評価シートの記載について

名古屋港管理組合政策体系2018
(平成29年度一部改訂版)

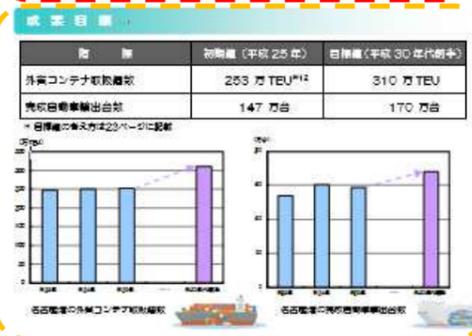
(6ページ)

施策1 国際・国内海上輸送機能の強化

【展開1】 国際・国内海上輸送機能の強化
船舶の大型化が進む中、バナマ運河の開通がもたらされており、船舶の大型・増速などコンテナ船の大型化が進む中、自衛隊を主要な拠点として、自衛隊基地の強化・拡充を図ります。また、バナの貨物の安定的かつ適切な供給を確保するための船舶の増強を図ります。

【展開2】 民の視点によるコンテナターミナルの効率化・サービス向上
電荷運賃会社制の導入、コンテナターミナルの一元化等による効率化を図るとともに、荷役設備などの整備に対する費用負担の軽減等によるコストの削減や、貨物の積込・降下にかかる時間短縮によるサービス向上を図ります。

【展開3】 多様な船舶サービスの提供に向けた整備
船主・船主等に対する船主会、企業訪問、企業への訪問、海外地域の船主等との親睦会、イベントやフェア開催等（航海博覧）等の実施により、整備の促進を図ります。多様な船舶サービスの提供・拡充を図ります。



(7ページ)

主要事業

【展開1】 国際・国内海上輸送機能の強化
南米アジア航路のコンテナ船の増加やコンテナ船の大型化に対応するため、船主等との連携強化を図ります。

主な活動	事業内容	初期値(平成25年度)	目標値(平成30年度)
船舶	沖島(約15m)等の船舶整備(全7工区)	1工区(累計)	2工区(累計)

【展開2】 コンテナターミナルの効率化・サービス向上
名古屋港のコンテナターミナルの効率化を図るため、電荷運賃会社制の導入を行い、電荷運賃会社制の導入と併せて、伊勢湾一帯の電荷運賃会社による一元化を図ります。

主な活動	事業内容	初期値(平成25年度)	目標値(平成30年度)
船舶	伊勢湾一帯の電荷運賃会社制の導入に向けた整備	0区(累計)	8区(累計)

【展開3】 多様な船舶サービスの提供
船主、船主等に対する船主会、企業訪問、企業への訪問等の開催や、海外への有識者との親睦会、イベントにおいて「名古屋港」のPRを実施し、整備の促進を図ります。

主な活動	事業内容	初期値(平成25年度)	目標値(平成30年度)
船舶	船主会参加者数(国内)	1,457人	2,054人

施策評価シート 対象事業年度 平成 30 年度

施策1

1. PLAN(目的・展開内容)

サービスの対象者(誰のために) 展開(どういった状態にしたいのか)

2. DO(施策を構成する各事務事業の取組内容・今後の方向性)

コード	事務事業名(担当課名)	指標名【指標型】	5年間の状況					令和元年度以降の取組	
			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度		
000	〇〇整備事業(事業推進課)	事業進捗状況(全8工区)【進行管理型】	1工程 123,456千円	2工程 135,790千円	1 1	4工程 36,914千円	5工程 14,700千円	順調	2 継続
【展開①】									
【展開②】									
【展開③】									
施策コスト(合計)									

3. CHECK(成果目標の状況・5年間の成果目標の総括)

施策 成果目標	実績等	5年間の成果目標の総括				
		26年	27年	28年	29年	30年
目標値						
実績						
目標値						
実績						

4. ACTION(課題・令和元年度以降の取組)

展開①	5年間の達成状況		令和元年度以降の取組	
	課題	取組	課題	取組
展開①				
展開②				
展開③				
今後の新たな取組方針				

1. PLAN (目的・展開内容)

名古屋港管理組合政策体系2018(平成29年度一部改訂版)(以下「政策体系2018」という。)で定めた施策として、期間中に取り組むべき内容を3つの展開に分類して記載しています。

2. DO (施策を構成する各事務事業の取組内容・今後の方向性)

施策を構成する各事務事業の評価を記載しています。

1 政策体系2018の計画期間の5年間の総括として、事務事業毎に設定した活動・成果指標の各年度における目標値と実績値によって取組状況を検証しています。また、事業費、各年度の状況を記載しています。

2 1の各年度の状況を受け、5年間の状況を記載しています。また、次期中期経営計画における対応案等を記載しています。

※1 評価方法の詳細については、次ページを参照してください。
※2 「施策評価シート」は、政策体系2018の2~3ページ掲載の事務事業を対象としています。

3. CHECK (成果目標の状況・5年間の成果目標の総括)

3 政策体系2018で設定した施策の成果目標について、5年間の目標値と実績値を記載しています。

4 3の目標値に対する実績値について、外部要因等を踏まえ、5年間の成果目標の総括を記載しています。

4. ACTION (課題・令和元年度以降の取組)

5 展開毎に5年間で取り組んだ内容を検証しています。

6 4~5を総括して施策実現に向けた課題を抽出し、その課題解決に必要な対応について記載しています。

7 今後の新たな取組方針を記載しています。

2. D。(施策を構成する各事務事業の取組内容・今後の方向性)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	5年間の状況	令和元年度以降の取組	
コード	事務事業名 (担当課名)	指標名 【指標型】	1段目: 指標 目標値						
			2段目: 指標 実績値						
			3段目: 事業費(単年度・人件費込・国費除く)						
			4段目: 各年度の状況						
【展開①】									
施01 事00	〇〇〇整備事業 (事業推進課)	事業進捗状況(全8工程) 【進行管理型】	1工程	2工程	3工程	4工程	5工程	順調	継続
			1工程	2工程	2工程	4工程	5工程		
			123,456千円	135,780千円	24,680千円	26,914千円	14,726千円		
			順調	順調	やや遅れ	順調	順調		

「各年度の状況」の考え方
各年度の状況は下図のような考え方を基本として判定しています。
指標型は「進行管理型」と「単年度管理型」の2種類に分類しています。

「進行管理型」
事業開始等からの累計値
(目標値・実績値)に
よって進行管理する指標
例: 建設・整備事業の
進捗率など

「単年度管理型」
単年度の目標値・実績値に
よって目標管理する指標
例: 活動回数、来場者数など

注: 目標値については、5年間一定の場合もあります。

5年間の状況
26～30年度の各年度の状況を総合的に判断します。